イネモンガレ病防除試験（1）

望月正己・沢崎　彬

（富山県農業試験場）

本試験はモンガレ病防除試験の一環として行つたもので，主としてTuzetの効力並びに薬害の判定を目的としたものである。その結果については尚今後の研究に待つところも少くないが一応本病防除の目安がついたので茲に報告したい。

室内試験　8月9日播種した中生銀坊主苗に9月21日薬剤撒布し，湿室に24時間保つてから2週間室内に放置して発病を調査した。その結果Tuzetタルク増量（3％）及びTuzet＋セレサン石灰（Tuzet 3％）が最も秀れて発病皆無，次いでMMCを主成分とするモンガレン，モンガレ粉剤，水銀王銅ダスト，MMC＋2．4Dエステル並びにNM31の効力が高くて発病率20％程度であつた。セレサン石灰，NT24，PMF，フミロン錠等の効果は非常に低かつた。なお無撒布区は100％の発病率を示した。

ポット試験　7月18日播種した農林48号に9月14日薬剤撒布し，菌核を接着した。その当日と24日とに24時間づつ湿室に入れ9月28日発病調査を行つた。その結果はTuzetタルク増量（3％）が発病皆無，Tuzet 1000倍液が2.2％発病率でこれにつぎNM 31，MMC剤は各々23.1％，26.5％で効果が認められたがPMFフミロン錠は効果がうすかつた。なお無撒布の発病茎率は76.5％であつた。

圃場試験　本農試圃場で4月23日播種し6月5日移植した農林1号に6月24日菌核培養藁を1区10株宛接着し，或程度の発病をみた。7月10日に粉剤反当3 kg，液剤反当6斗の割合で撒布した。区は10区3連制で1区30株宛調査を行い，3区の平均を以つて表したのが第1表である。

モンガレ病防除効果はTuzetタルク増量が最も秀れ次いでTuzet 1000倍液であつた。MMCを主成分とするものはTuzetに比して劣るが或程度の防除効果は認められた。収量においてはTuzetタルク増量区が最も高かつたがTuzet 1000倍液区ではそれほどの増収がみられなかつた。他の薬剤撒布区では無撒布区との間に殆と収量差がみられなかつたが，これは試験圃場のモンガレ病発生が激しくなく，その被害が無撒布区においても5％減とみられる程度であつたためであろう。また，前記の圃場で1区当り健全株30を選び薬害の有無を調査した。葉に現れた肉眼的薬害はTuzet液及びTuzetタルク増量区で僅か認めたのみで，これも茎葉の繁茂につれて消失した。収量においてはTuzet 1000

第1表

供試薬剤	発病株率			収量比（玄米重）
	6月24日	7月10日	9月6日	
モンガレン	0	12.2	30.0	101.8
モンガレ粉剤	0	16.7	24.4	100.3
MMC＋2．4Dエステル	0	10.0	30.0	100.3
Tuzetタルク（3．6％）	0	17.8	7.8	109.2
水銀王銅ダスト	0	17.8	24.4	99.1
水銀ボルドー	0	13.3	35.6	102.5
フミロン錠	0	13.3	35.5	98.5
Tuzet 1000倍液	0	20.0	12.2	102.5
無撒布	0	17.8	41.1	100.0
無撒布無接種	0	0	3.3	105.2

倍液撒布区が無撒布区に比して玄米重で 3.6%低かつた外は各区共多かれ少なかれ無撒布より高かつた。以上Tuzet 液剤の場合1000倍稀釈でなお収量に多少の薬害がみられるが，粉剤形態では安全なようである。

又西砺波郡福光町において農林1号で行つた Tuzet とボルドーとの混用試験では第2表にみられるように撒布区は何れも顕著な防除効果を示した。収量においても Tuzet 500倍液単用区が無撒布区を下回つた外は何れも2〜10%の増収となつた。

むすび　以上の各試験からモンガレ病防除には Tuzet の効果が卓越しており，薬害の点で多少マイナス的作用があるが，本病のかなり発生する様な地帯では，その発病抑制の効果で薬害を補つて余りあるものと考えられる。尚タルク増量の場合効果及び薬害の点で好結果を得たので今後更にこの形態について検討したい。液剤形態では防除効果，薬害及び経済的見地から1000倍以上の稀釈が良いと考えられるので更にこの点も研究を重ねるつもりである。ボルドーとの混用は効果，薬害からみて効果的であつたが液の懸濁性が悪くなり噴口をつまり易くする欠点がある。Tuzet 以外では MMC 剤が良いようであるが Tuzet に比してかなり劣る結果となつた。

第 2 表

区	Tuzet濃度	発病茎率	被害度	収量比
	%	%	%	%
Tuzet × 500	0.2	0.8	0.2	96.9
〃 ＋6斗式ボルドー	0.2	0	0	102.1
〃 ＋1石2斗式ボルドー	0.2	0.3	0.1	110.5
Tuzet × 1000	0.1	0.9	0.2	107.3
〃 ＋6斗式ボルドー	0.1	0.2	0.1	109.4
無撒布	—	87.5	23.8	100.0

備考　6区2連制1区6坪．1区10株調査。薬剤撒布6月25日．7月5日．7月14日の3回。調査9月5日（収穫期）。

モンガレ病防除試験（2）

Tuzet剤及び他の液剤、粉剤の効果について

望月正己・田口　昤・沢崎　彬

（富山県農業試験場）

モンガレ病の特効薬として紹介されたTuzet 剤の北陸稲作に対する適合性をボルドー液及びその他数種の殺菌剤と共に行つた防除効果比較試験成績は次のようである。

液剤による試験　対象品種に北陸57号を用い，N質肥料を多目に施用した圃場で6月20日，6月30日，7月10日の3回に亘り各薬剤共反当4.5斗を株元に対して撒布した。初発生がかなり遅かつたが Tuzet 500倍区及び Tuzet 500倍 ＋ 6斗式ボルドー液区は他の区より約1ケ月も遅れて発生が認められた。他の区では初発生以来標準無処理区と殆んど同じように発病進展したにもかゝわらず，上記2区は極めて僅かの発生しか認められず，被害度は皆無に近かつた。しかし，Tuzet 500 倍区では薬害が多目に発生し下位葉及下位葉鞘に明らかな斑点（紋）及汚染が表われた。これは Tuzet 剤の濃度が 500倍であつたために特に発生したものと考えられるが収量にまで影響し被害度に比較して増収率は少なかつた。また，Tuzet 500倍 ＋ 6斗式ボルドー液区は薬害がかなり軽減され，収穫量は最も多く標準区に比較して約1割の増収であつた。